

平成6年8月7日（日）

第20回 越谷市民まつり

# 郷土研究会 展示出品紹介

『越谷吾山の碑』

越谷市郷土研究会 副会長 鈴木秀俊

『長寿と健康の光頭会』

越谷市郷土研究会 理事 高崎 力

越谷台吾山の碑

鈴木 秀俊



①

ここに展示した四枚の写真は、越ヶ谷の出身で江戸期最大最高の全国方言辞典『諸国方言物類称呼』を編集出版して、方言学の始祖といわれ、また俳諧師として、法橋の高位に座した越谷吾山の業績を偲んで建てられた碑である。

写真① 市指定文化財。久伊豆神社神池の端にある句碑。

表 出る日の 旅のころもや はつかすみ、法橋吾山 飯翁口

裏 嘉永二己酉正月十三日(吾山歿後、六十三年にあたる)

伊勢太々講中 越ヶ谷宿(四人の氏名がある) 大沢町(三人)

自然石で高さ一一五センチ、幅は九〇センチ。

写真② 天嶽寺参道入り口の碑 (破損)

表 越谷吾山翁墓碑 在寺

裏 百五十年回忌為 同族浜野吉之助 昭和九年十二月十七日建之

写真③ 天嶽寺赤門前、向かって左側の句碑。

表 ひとつるべ 水のひかるや けさの秋 吾山

裏 百五拾年忌記念建碑

師竹庵吾山は越ヶ谷の人、姓は会田氏、名は秀真、信濃の名族海野氏なり。方言を究め、俳諧を好み、柳居、沾山(せんざん)に学ぶ、法橋に叙せらる。曲亭馬琴の師なり。

天明七未歳十二月十七日、七一歳を以て江戸に歿す。

著すところ、物類称呼、翌檢(あすなる)、朱紫等あり、月と汐。



③



④

写真④ 越谷吾山墓碑

正面中央 法橋往蒼吾山師竹居士(左側面天明七未歳十二月十七日)

発起人総代 志田素琴、東条操、大田栄太郎、有瀬七蔵、会田利治郎、当山三十世榎本一成。石工 小島勝

昭和九年十二月十日

保二年(一七二七)に生まれた(会田文之助)。若年の頃から各地の文人と交流、とくに俳句を好み、江戸の俳諧師佐久間柳居に入門したのは二四歳の頃といわれる。寛保三年(一七四三)師の柳居編『芭蕉翁同光忌』(芭蕉翁五十四回忌追善集)に「うぐひすの 子もしほらしや 手向経 吾山」外一句。寛保四年柳居の『安実陀経』に「この寺の人参太し 大根引き 吾山」外四句がある。延享五年(一七四八)柳居没。明和の初め頃、沾山(二世)の門に入り判者となった。沾山没後は独立して判者となったという。

明和六年(一七六九)五三歳の頃、越ヶ谷を退転、江戸馬喰町一丁目東よこ町に移り住む。安永三年(一七七四)日本橋に転居、師竹庵となる。歳旦帖『坤右記(そうぎき)』刊行。安永四年『物類称呼』の初版本を刊行。安永五年『東海藻』刊。安永六年六月十一日法橋に叙せらる。同年『和漢通記』成る。安永八年『雅言俗語翌檢(あすなる)』刊。安永九年涉無庵太初の『閑古鳥』(柳居三十三回忌追善集)に「見定める うちに飛びり かんこ鳥 吾山」。天明三年日本橋より堺町へ移る。天明四年『朱紫』刊。『俳諧月と汐』も同じころ刊行。天明七未年(一七八七)七一歳をもって没した。深川靈巖寺に葬られる。(のち、天嶽寺に移す)

天明九年、吾山一回追善集『雪を花』刊行。(息・貫四編、春蟻・菜陽後見)。吾山辞世「華と見し 雪はきのうそ もとの水」。寛政三年(一七九一)滝沢馬琴(吾山の門弟)『岡面談』(吾山三回忌追善)成る。吾山を語る貴重な資料。

【参考文献】杉本つとむ著「越谷吾山」 さきたま出版会

長寿と健康の光頭会

高崎 力



古梅園の名残りをとどめる北越谷の浄光寺境内において、初めての光頭会が開催されたのは、昭和二十六年（一九五二）、梅の香匂う春三月である。  
 発起人は、埼玉県四区選出国會議員や地元有志、それに県知事や新聞社の協賛を得て、市域をはじめ埼玉東部地域から光頭自慢の各界の名士が勢揃いし、お互いの長寿と健康を祝福し、昔話・自慢話に花を咲かせた。  
 娯楽の少なかつた頃だったので、東武沿線一带から老若男女の大観衆で浄光寺境内は終日賑わった。

参加者はこの日に備えて、光頭に怠りなく健康の保持増進に努めてきたので、甲乙決め難く、厳正なる審査によって入賞者が決められた。

賞品は光頭にちなみ、電球・洗面器・ヤカン・鯛叩きなどであった。

特に盛況だったのは第四回で、この日は女優三名を迎えて撮影会も開催され、記録映画は遠くブラジルにて上映されたという。

次に紹介されている石仏は十一月に行われる第二十六回市民文化祭郷土研究会展示部門出品予定のうちの一つです。本日の『市民まつり』の他に『市民文化祭』（会場はコミセン）の郷土研究会展示部門にも是非ご参加ください。お待ちしております。

0  
10 cm  
20 cm  
30 cm



村内安安全全置

古梅園  
上野池

鶴亀山

# 社風神

世 上原 藤木 郎  
 話 上原 全治 郎  
 人 小倉 三 吉  
 上原 勝治 郎

世 關根 園 藏  
 話 田川 小三 郎  
 人 上原 佐兵衛  
 田川 松五 郎

上間久里閣魔堂南東側道路沿い

## 越谷市郷土研究会のご案内と ご入会のおすすめ

越谷市郷土研究会 会長 谷岡隆夫

- ・当会は昭和40年(1960)3月に発足しました。
- ・年間3回の『研究発表会』、年間8回の『史跡めぐり』を実施しています。  
そのお知らせは「広報こしがや」に前もって掲載されます。  
原則として毎月第四日曜日に実施しております。  
どなたでもご自由に参加できます。  
研究発表会は110回を越え、史跡めぐりは210回を越えました。
- ・今年度より『歴史講座』(受講無料予定)を開催します。
- ・会報『古志賀谷』を発刊しています。
- ・越谷文化連盟に所属し、市民まつり・市民文化祭に毎年参加しています。
- ・公的な機関に対しての講師の派遣をしています。  
今までに『けやき荘』(けやき学校歴史散歩教室)や『南越谷公民館』  
(庚申信仰と庚申塔)へ派遣しました。
- ・昨年度までは『古文書クラブ』の学習会を実施していました。

会員の方へは、すべての行事のご案内をさしあげています

### ご入会を歓迎致します

現在、会員の方は100名を越えております。

ご入会なされたい方は、当会場の担当の者に申し出ていただくか、  
下記へお葉書をお送りください。

入会の申込先 越谷市宮本町3の117の8

谷岡隆夫方 越谷市郷土研究会

会員の年会費は2,000円(会報・諸案内状・諸会議費等)です。

- 尚、8月21日(日)に『歴史講座』を開きます。  
講座名は「初歩の石仏の見方、基礎知識」(講師・当会副会長山田政信)です。  
場所は中央市民会館第2会議室。費用は無料です。  
どなたでも参加できますのでふるってご応募ください。

9月は25日(日)に第212回史跡めぐり(案内者・  
当会副会長鈴木秀俊)を予定しています。